

風しん予防接種費用の一部を助成しています

《風しん緊急対策》

対象者

接種当日、出雲市に住所を有し、平成25年4月1日現在、満18歳以上の方で次に該当する方

- ① 妊娠を希望または予定している女性(妊娠中は接種できません。)
- ② 妊娠を希望または予定している女性の夫
- ③ 妊娠している女性の夫

※風しんにかかったことがある方や、風しんワクチンを2回接種した方を除きます。
※女性が接種した場合は、接種後2か月間は妊娠を避けてください。

助成対象の接種期間

平成25年4月1日～12月31日までの接種

助成費用

1人1回限り

麻疹・風しん混合ワクチン及び風しんワクチン接種費用の半額。
ただし、4,000円を上限とします。(10円未満の端数は切り捨てとします)

申請方法

- ◆ 申請場所／健康増進課または、各支所健康担当課で申請してください。
- ◆ 申請受付期間／平成26年1月31日まで
- ◆ 申請書類／①風しん予防接種費用助成申請書 ②申請者(接種者)の印鑑
③申請者(接種者)名義の振込先口座の写し(通帳などのコピー)
④領収書の原本(氏名、接種年月日、接種ワクチン名、接種費用、接種医療機関名のわかる領収書)
⑤身分証明書(運転免許証、健康保険証、住民基本台帳カードなど)
⑥妊娠している女性の夫の場合…母子健康手帳



※詳しくは、健康増進課(☎21-6829)におたずねください。

※島根県は一部医療機関と保健所で風しんの抗体検査を無料で実施しています。(要件有)

子どもの心の専門外来です。 ご相談ください。

えがおになあれ
40

子どもたちが明るく元気に育つのを
見ると、未来に希望を感じます。
毎日を心豊かに過ごし、子どもも大人
も、「えがおになあれ」…そんな願いを
込めて、このコーナを設けました。
(出雲市要保護児童対策地域協議会)

県立こころの医療センター児童思春期外来は、学校に行けない、元気がなくなった、人の視線が気になる、極端なダイエットがやめられない、自分を傷つけてしまう等の悩みを抱えた主に小学生から高校生までの児童・生徒を対象に診察を行っています。
県では、不登校をはじめ、さまざまな子どもの心の問題に関して医療を中心に、保健・福祉・教育等関係機関と連携した支援が必要となっています。そのため昨年度から、「子どもの心の診療ネットワーク事業」が立ち上がり、当院が拠点病院に位置づけられました。受診をお考えの方は、思春期外来にお電話をください。相談のあった内容を外来の看護師、精神保健福祉士が丁寧にうかがい、院内の多職種(医師・心理士・看護師等)で協議し、相談された方に最適と思われる対応をご提案します。
関係機関への医療支援は、当院に通院されている方に、本人・家族の了解

要保護児童対策地域協議会は、子どもが健やかに育つよう社会のさまざまな機関が子育て中の家庭を見守り、必要に応じて支援し、児童虐待等のない社会を目指すために組織したものです。

を得たうえで、地域の関係機関の会議等に参加し、相談対応を行っています。今年度からは、学校や地域の相談の窓口になっている保健所への支援として、地域のネットワーク会議出席や心理士の派遣を行っています。
思春期外来は、子ども専門の外来で、待合や診察室も成人と別です。ご相談ください。
(執筆：県立こころの医療センター)



児童思春期外来の受付です。
スタッフがご相談に丁寧に応じます。

おたずね
《県立こころの医療センター》
児童思春期外来
電話受付 9時～16時
☎0556(代表)



青い旅

最近の教育雑誌や新聞、講演会などで紹介される情報は、悩みや困難を抱えている子ども・若者のことについてふれているものが多くなっているのではないのでしょうか。身近なところにも見え隠れする子どもたちの悩みについて、一緒に考えてみませんか。

疲れている子どもたち

学校の保健室はケガや病気の処置以外にも、子どもたちがほっとできる場所になっています。

- ・保健室に来る子どもたちは、さまざまな理由で「疲れている」ことが多いです。
- ・寝不足による体調不良、集中力不足
- ・家庭内の問題、いざこざによるストレスで精神的に疲れている
- ・がんばりすぎて気持ちに息切れを起こしている
- ・学力不振で悩みを抱えている
- ・友達関係で悩みを抱えている

複雑な友達関係

さまざまな悩みの中でも、友達関係についての悩みが多くあります。

○子どもたちのグループ

子どもたちの生活の中には、休み時間集まるグループ、スポーツ少年団や部活動に関わるグループ、遊ぶ時のグループなどさまざまなグループが存在します。

自分が所属するグループの中で嫌われないように、繊細な配慮をし、自分の言動を細かく分析しては日々疲れている子どもたちがたくさんいます。

グループの中でも、気に入らない、仲間のルールへの理解が乏しいなどを理由に仲間はずしが起こるよう

です。はずされた者としては先生や親に言うことがなかなかできません。自分が阻害されている事実を認めることは自尊心が傷つくからです。

○ひとりぼっち

グループにいてことで安心感を保っていた子どもが、一人ぼっちになることは、耐えられない苦痛になります。

「ぼっち食」という言葉があります。食事をする時、楽しく話す友達がいなくて、まさしく一人ぼっちで食べることです。「ぼっち食」を見られたくなくて隠れてひっそりと食べることもあります。こんな苦痛に耐えられなくなり、ついには不登校となった例もあります。

○メール等のやり取り

また、ケータイメールなどによるトラブルも多くなっています。

すぐに返信しなくてはならないという強迫観念が生じて、いつ送られるかわからないメール等のために、携帯電話などを手から離せ

なくなっているのです。もし、返信が遅れたり、内容が相手に気に入らないことでもあったりしようものなら、受信拒否をされるようになったり、誹謗中傷されたりしかねません。

悩みを抱えている子どもたちのために、さまざまな機関が相談・支援に取り組んでいます。一人で、家族だけで悩まず、まずは相談してみませんか。

出雲市子ども・若者支援センター

ヤッホー ナヤム ナ

フリーダイヤル **0120-84-7867**

相談時間 ○月～金曜日 8時30分～18時
○土曜日 8時30分～17時

※土曜日は事前予約の面接相談のみ。
※面接相談は事前に予約をお願いします。